

様へ

説明医師
説明看護師(外来)
看護師(病棟)

月日	月 日	月 日～ 月 日	月 日	月 日
経過	入院	入院2日目～5日目	当日(治療前)	当日(治療後)
目標	心身ともに安定した状態で検査に臨むことができる 抗凝固薬(ヘパリン)置換療法に伴う合併症(凝固異常による出血・血栓塞栓症)の出現がない ルートトラブルがない			2ページ目の目標を参照
検査	採血・検尿を行います		入院2日目と4日目に採血を行います	検査5時間後に採血を行います
食事	朝食は自宅			
処置・観察	1日2回(朝・夕)血圧・脈拍・体温を測定します 毎日同じ時間に体重を測定してください 点滴の針を挿入します 点滴刺入部の観察を毎日観察します(刺入部の痛みや発赤などで針の入れ替えが必要になることもあります) リストバンドを装着します(退院日まで装着します)		 穿刺部の安静を図るため女性の方は尿道カテーテルを留置します(男性の方でも必要な場合は尿道カテーテルを留置します)	検査後3時間は30分～1時間ごとに血圧・脈拍測定をします
点滴・内服	持参薬、お薬手帳を看護師に渡してください 抗凝固薬・血小板薬以外の薬は服用を継続してください ※現在休薬中のお薬() 検査後合併症がなければ抗凝固薬・抗血小板薬は再開します。医師の指示が出たら看護師が説明します 抗凝固薬(ヘパリン)の持続点滴を開始します		抗凝固薬の点滴は検査6時間前に中止します	検査開始より持続点滴(止血剤)を開始します(500mlを4本) 抗生剤点滴を検査時と22時に投与します
行動	特に制限はありません シャワー浴をしていただきます(ご希望の時間に調節します) ※点滴留置中は防水テープで保護をします		検査前にシャワー浴をしていただきます シャワー後検査着に着替えます 血栓予防のため弾性ストッキングを着用していただきます(検査後にフットポンプを装着する場合があります)	検査後3時間は絶対安静にしてください 3時間後からベッドを30度まで挙上出来ます 検査後の採血で貧血の進行や穿刺部の出血・血腫がなければ穿刺部を下にした側臥位をとることができます(看護師が行います) 食事は床上で行います。看護師が介助をします 排泄は床上で行います
説明	医師より説明 治療について 看護師より説明 入院生活について 薬剤師より説明 薬について	看護師より説明 腎生検について 検査後の安静について 蓄尿検査について		医師が創部の診察を行います 看護師より説明 検査後の安静について

*** 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください**

* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月 日 ~ 月 日
経過	検査後 1 日目		検査後 2 日目
目標	腎生検後合併症(腎出血・腎周囲血腫・血尿・穿刺部出血・血腫・感染)をおこさない 穿刺部の疼痛が時制内で経過する 検査後、指示された安静が保持できる 安静に伴う腰痛や苦痛が最小限にとどめられる		腎生検後合併症 (腎出血・血腫・血尿・感染)をおこさない 退院後の注意点が述べられる
検査	 朝、採血・検尿を行います 朝 10 時～翌朝 10 時まで蓄尿検査  を行います		 10 時に排尿を済ませたら 蓄尿検査は終了となります
食事			
処置・観察	 1 日 2 回(朝・夕)血圧・脈拍・体温 を測定します ※尿道カテーテルを留置 している場合は安静解除後に 抜去します		 留置針を抜去します
点滴・内服	 点滴が終了したら抜針します 抗生剤は 10 時で終了です		 検査後の出血や貧血の進行がな ければ休薬していた抗凝固薬・抗血 小板薬を再開します ※再開日は医師と看護師が説明します
行動	 採血の結果、貧血の進行がなけれ ば安静解除となります その後は制限ありません		 シャワー浴できます
説明	 医師が創部の診察を行います  看護師より説明 蓄尿検査について		 医師より説明 治療について  看護師より説明 生活上の注意点について
			 医師より説明 治療について  看護師より説明 退院後の療養生活について  薬剤師より服薬指導があります